



美原&美原東

ロイヤル・ニュース

MIHARA & MIHARA-HIGASHI ROYAL NEWS 2014 SUMMER Vol.27

○平成26年7月25日発行 (年2回) ○発行人/野瀬泰良 ○企画・編集・発行/(宗)宙叡教霊園管理部

美原東ロイヤルメモリアルパーク 第三造成地区「サウスゾーン」 墓地申込受付開始 四月十八日

昨年十二月十七日、羽曳野市長様の霊園拡張の許可を受け、すぐさま美原東ロイヤルメモリアルパークでは第三期墓地造成工事を開始し、三ヶ月半に亘る工期を経て、四月十二日に完工いたしました。

その間、工事車両や工事関係者が多数霊園に入った為に、同霊園で墓地を使用して下さいとあるお客様には大変ご迷惑をおかけしたことを深くお詫言いたします。

四月十七日には羽曳野市による竣工検査を済ませ、墓地等拡張の工事を完了検査証を受けて、翌十八日から拡張地区「サウスゾーン」の墓地使用申込受付を開始いたしました。

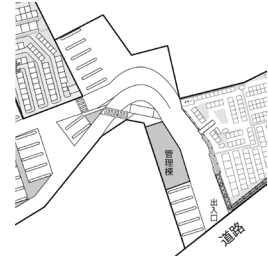


拡張工区の竣工を待つおられたお客様が多数いらしたこともあって、以来六月末までの約七十日間第三期「サウスゾーン」については、既に五十区画余りの墓地申込を載せています。皆様温かいご理解ご協力を賜り、お陰様で好評の内に墓地申込の成約が進んでいます。

美原東ロイヤルメモリアルパークは、その豊かな植栽の緑や花壇に咲き乱れる色とりどりの花々によって墓参客様の心が癒される「公園墓地」を目指しています。その地は元々自然林であったことを意識して、生活の豊かさへの欲求や産業活動が増加させた二酸化炭素を削減させる為の地球環境保全運動にも公益法人として協力し、霊園開発で伐採した木々を出来る限り数量的に復元しようと努めています。

霊園開発への行政指導にある墓地区域(開発許可面積から共用地を除く区域)面積の十五パーセント以上の緑地につまましては勿論植栽を完了していますが、霊園の共用地(園内道路、駐車場、管理棟敷地)への植栽は今後も続けます。今後は夏季で中断していますが、この秋から冬にかけて第二期、第三期の共用地に、更に数十本の高木を植栽する計画です。

美原東ロイヤルメモリアルパーク 管理棟前から大駐車場に行く 車道の拡張工事に入る (完工は七月末)



管理棟前を迂回して急カーブを左折して大駐車場に行くのは、以前から車を運転なさるお客様から「なんだか扉に車を接触しそうで気分的に良くない」と苦情が寄せられていました。丁度第一造成区(エントランスゾーン)と第二造成区(ロイヤル・シユラインゾーン)との問題の急カーブの接続路の横には、隣地の地主様から借地して霊園関係者用の駐車場や清掃用具置場になっている所があります。そこで地主様と交渉し、借地面積を少し広げさせていた、この接続部分の工事を大々的にやり直すことにいたしました。工期は七月の一ヶ月を予定しています。

美原ロイヤルメモリアルパーク メインゾーン奥のコンクリート 舗装工事が完了



美原ロイヤルメモリアルパークでは、園内のコンクリート塀や擁壁を、日本古来の土塀に見せるべく、左官工事をして、吹き付け塗装を行って、園内の美化を図って参りましたが、まだメインゾーンの奥のコンクリート擁壁だけ放置されておりましたので、今春、鶯色の土塀に見えるように左官塗装を行いました。また拡張した大駐車場のアスファルト舗装工事を行い、三十七台の駐車スペースを確保いたしました。

美原東ロイヤルメモリアルパーク 有志が集まり、 苗木二百七十本を植樹する



霊園第三期拡張工事竣工の前の三月二十九日、同霊園の墓地使用者日さんご一家や霊園の職員や経営者の家族が集まり、第三期サウスゾーンの般墓地と動物のお墓も一緒に建てられる地区とを分断する緑地帯に、寒椿、クチナシ、沈丁花、皐、躑躅、山茶花、レンギョウ、山吹、紫陽花、ネズミモチ、ヒサカキ、ウバメガシ、シヤリンバイ、ナンテン等、十九種類、二百七十本の苗木を植えました。数年後には緑豊かな茂みになることでしょう。

霊園施主からのお知らせ

これまで霊園施主にて美原ロイヤルと美原東ロイヤルの二つの霊園公式HPを制作・運営しておりましたが、「美原ロイヤル公式HP」に使っていたURL (www.noseh.com/) を、この九月から両霊園で墓地を使用下さるお客様の為の「霊園管理部のHP」と変えさせて頂くこととなり、以後販売用の霊園HPと区別することになりました。そこには墓地を使用下さるお客様に必要な総ての情報を掲載いたします。是非ともご家庭にあるPCや、ご愛用のスマホに「お気に入り」登録をお願いしたいと思います。

そして永らく皆様に御愛読戴きました霊園新聞「美原&美原東ロイヤル・ニュース」も、前回もお知らせした通り、次号を以て刊行を終了することとなりました。霊園行事や霊園管理部の決算公告等、年に一回、年末に一枚のチラシにして暫くは以後も発送を続けますが、将来的には経費節減を図ってHPだけのご案内となりますので、墓地使用者の皆様には「霊園管理部のHP」を、彼岸、お盆、正月前にご覧いただければ幸いです。



平成26年7月

美原ロイヤルメモリアルパーク

美原東ロイヤルメモリアルパーク

霊園施主 宗教法人

宙叡教/代表役員

野瀬泰良

まさつら

第六回 楠正行騎馬軍団の最期

(宗廟勸教 代表役員) 野瀬 泰良

この半年間、紀州隅田城に始まり、池尻、葛井(ふじい)寺、瓜破野と、勝手気儘に武装蜂起を繰り返して、鎮庄部隊に手痛い傷を負わせ、果ては畿内全体の安寧すら脅かそうとする楠正行(まさつら)兄弟や、従兄弟の和田兄弟らと、背後で彼らを操る吉野朝廷の北畠親房、四条隆資(たかすけ)ら不逞(ふてい)の公達(さんだち)らに、幕府の面子にかけて鉄槌を下さねばならず、二三四七(正平二年十一月、將軍足利尊氏(たかくじ)は、全国から五万騎の武將を集め、総大将に高師直(こうしちく)のようのもろなおお)を、搦め手大将には弟、師泰を選任し、南朝勢力の撲滅、掃を命じた。

幕府方大手部隊、高師直率いる三万七千騎と、一千名余りの楠、和田の騎馬兵や歩兵らとの決戦は、翌年(正平三年)正月五日の早朝、東高野街道の四条畷(よじょう)軍山(よじょう)で始まった。往時は相原から北に流れていた大和川の水を貯め込み、生駒連山の裾を南北に抜がれた深野(ふかの)の池東岸に沿う全長八キロの細い縄手(なべ)道(たへい)が四条畷と名付けられたに並ぶ武家方諸部隊を積極果敢に攻め続け、甚大な被害を与えながら、楠軍は遂に総大将、師直が本営を置く北条(よじょう)四條畷(よじょう)付近(よじょう)攻め込んだ。しかし奮闘むなしく、多勢に無勢、和田助氏や石川次郎が連れ帰った負傷兵らは別にして、正行と共に最後まで戦った楠和田の兵たちは日没とともに全員還らぬ人となったのだ。

繰り返すが、六回に亘る正平の楠軍の蜂起並びに四條畷の戦いの記述は、嘗(か)つて軍の参謀だった田中俊資(とんちく)としすけ氏が楠正行の戦史を著した書「楠正行(なばな)正行の首、嵯峨野宝篋院に密かに埋葬される」(翠日(すいじつ)の午後には高師直(こうしちく)四十七歳)討ち取った楠和田の武將首五十余りを携えて京に凱旋し、將軍足利尊氏(たかくじ)四十三歳)と弟、直義(ただよし)四十三歳)に謁見した。尊氏も直義も歳を重ね、最近では仏罰を恐れ、手を合わすことも多くなった。

後醍醐天皇が臨終の時に反逆した足利氏を恨み、必ず討つて報復するぞと宣言して生じられたと聞くや、尊氏には恐ろしくなってきた。楠木正成(まさしげ)、新田義貞(にいだけ)、北畠親家(きたはた)あきえ、等後醍醐方の主立った武將たちが討ち死にし、宮(南朝)方と武家(北朝)方との力の差は歴然となった。それでも南朝方は抗うことを止めず、戦は果てしなく続く。それも総て、鎌倉で護良(もりなが)親王を殺めた、越前で天皇(もりなが)の皇子御三方を殺めた自らの悪行が招いた業(因果)なのだ、直義も自責の念にかられる日々であった。

尊氏、直義が口を揃えて師直に命じたことは、「敵の大將、楠正行(なばな)二十二歳の首だけは、吾らには晒(さら)さず、吟味する故、六条河原には晒(さら)さず、ここに置いて行け」という不可解なものだった。実は嵯峨野の宝篋院(ほうけつゐん)は、うきよといふ院主、黙庵(もくあん)禪師から、敵將正行の首を当方に埋葬し、供養したいとの申し出あり、敵將を供養するも足利御一族の果報に繋がること疑いなしと論されていたからだ。



四條畷神社 明治の世になって南朝の皇統が正当と見なされる変化を受けて、それまで見捨てられていた楠家が正行墓として墓所も拡張整備され、そこから真つ直く東に進んで飯盛山に突き当たる小高い丘に楠氏を祀る神社を創建したいと地元から願ひ出られ、1889年(明治22年)に四條畷神社が誕生した。父の遺訓に従い、大君(おおきみ 天皇)の天下(あめがした)治(し)る國体護持に殉じた楠正行の霊と、正行を忠君愛國者に教育した母、久子の霊が祀られている。6年後には浪速鉄道が付近に四條畷駅を造ると神社の参拝客が急増し、付近の人口も増えるようになった。(治る、治らす、は人徳で民を率いる意の古語。)

師直が退出した後、公家の菅原氏の墓が被害に遭ったように、師直によって暴かれることなきよう、正行の首は嵯峨野の禪師のもとにこっそりと届けられた。

因みに宝篋院には、二代將軍、足利義詮(よしあきら)尊氏嫡男(たかくじ)が自らの墓と正行の墓を並べよと遺言したために、今日も「二つ引き紋」が彫られた義詮の墓と、「菊水紋」が彫られた正行の墓が、朋友の如く寄り添って建っている。これについては次回(最終回)に語る。

不確かな情報に怯える師泰軍、和田勢の奇襲で総崩れとなる。話を前日に戻そう。北畠親房(きたはた)あきえ、顯家の父(おや)は思(おも)うところあつて、堺方面から東条(とうじょう)河内町(かみの)に進軍する。一万三千の高師泰(こうし)の軍もろや。四十六歳率いる幕府堀め手軍に対して、盾となる池尻の陣を放棄し、西に転進して光明池西畔(くわうめい)の和田村に入った。南朝方の本陣と見るべく、和田村に軍旗を林立させた。それが功を奏し、師泰の進速度を緩めることになった。師泰にすれば、もし北畠軍が周辺の和田勢と合流し、背後から襲つて来たなら、前方の楠留守部隊との挟み撃ちを食らう恐れが出てきた。為に師泰は土師(どし)師直(しちく)深井(ふかい)の北に屈強な武田盛信(むけの)を派遣して駐留させ、北畠軍の抑えとした。

ところが、大饗野(おおいの)迄進

んだところで、真偽は不確かだが、南朝に味方する紀州の大軍が紀見峠を越えたとの情報もたらされ、それが為の光明池の本陣設置だったのか、と武家方は疑心暗鬼に陥った。ここは土師(どし)師直(しちく)武田氏(むけの)と再度合流した後に東条(とうじょう)に向かうべきではないかと、目に見えぬ敵に怯え、迷いに迷いながら、幕府軍の縦隊は長く薄く伸びて行った。

不安が極度に増して作戦が変更され、縦隊の先端に命じて土師(どし)師直(しちく)に向け「Uターン」させた時だった。そこから現れたのか、そこへ和田正武(まさたけ)二十九歳率いる六百騎余りの



楠正行の墓 正行遺体埋葬時、小さな墓石が置かれたが、百年後其処に二本の楠が植えられた。二本の楠は五七〇年の年月を経てこの様な太の大木となった。

騎馬隊が急襲して来る。武家方縦隊の列に楔(くさび)を打つたかと思えば、南から北に抜け、自在奔放に幕府軍の縦隊を崩して行った。半時(はんじ)もすれば乗り手を失った馬たちが何処(どこ)と走り去り、後には人と馬との屍(しかばね)が累々(かさね)と横たわっていた。武家方は最早東条(とうじょう)攻めどころではなく、総崩れとなって西北方向に退散した。和田正武(まさたけ)は意気揚々と北畠親房(きたはた)五十六歳)に戦勝の報告をする。親

房は大喜びで正武を迎えた。二人は並んで北東の夕日に染まり始めた生駒連山(なまがね)北端の飯盛山(いひの)を遠望し、主力部隊の安否を案ずるのであった。

南朝方の軍師、北畠親房の独り言「正行(まさつら)たちは無事に退いたであろうか?」と親房はため息混じりにつぶやいた。小が大に勝てる唯一の作戦として、幕府軍を何か何でも吉野山麓(よしの)の渓谷(たに)に引き込まねばならぬ。それが為の因(おと)り作戦は、軍師(ぐんし)親房(ちか)がずっと考えてきたものだった。敵を誘き出す「撒き餌(まきえ)」(まさきえ)の役は、楠木正成(なばな)まさしげの遣見(よひ)たちをおいて他(ほか)にない、軍師親房(ちか)人(ひと)には言えぬ私情(しじやう)も絡め、冷徹(れいてつ)にそう断じていた。

(あれは十年前の、嫡男顯家(たかくじ)あきえ)が赴任地、奥州の軍を率いての二度目の畿内攻めの時、越前の戦いでお味方を多数失った直後であり、奥州軍には不利な戦況だった。僕は河内の土豪(とごう)風情(ふうじやう)の未亡人(みぼうじん)に文(ぶん)を書き、我が子顯家(たかくじ)への加勢(かぜい)を懇願(こんがん)した。ところが久子(くす)連房(れんぼう)はこの儀(ぎ)には返答(こたへ)もせず、息子を連れ戻すに拒(こ)み、楠家の跡取りが十二歳の若輩(わくばい)であることを理由に、北大和(きただわ)の敗戦(ばいせん)に気を落として暗昧(あんまい)を越えてきた息子(こ)顯家(たかくじ)に面(めん)と向(む)かつて援軍(えんぐん)を断つたのだ。為(ため)に土豪(とごう)の息子が生き長らえた。北畠(きたはた)門(かど)の跡取り(あとどり)息子が戦死(せんじ)した。そんな馬鹿(ばか)な話はなからう。以来(いらい)楠家の女主人(めしゆじん)が儀(ぎ)にはどんなに憎(にく)んでも飽(あ)き足(たり)らなかつた。成人(せいじん)した正行(まさつら)に出会(であ)ったのは、一年前(いっねん)の(後)村上(むらさき)上(じやう)帝(てい)が招集(しょうしゆ)された軍議(ぐんぎ)の席(せき)。流石(りやうじき)の儀(ぎ)も作戦(さくせん)の真意(まごころ)は口(くち)に出(い)せなかつた。しかし言(こと)わずとも理解(りかい)したのは楠正行(なばな)正行(まさつら)だと言(こと)うより、奴(やつ)も同じ(おななじ)利(り)で軍議(ぐんぎ)に臨(りん)んじたり。僕は奴(やつ)の利(り)をさと命(いのち)惜(おぼ)しめぬ勇(ゆう)敢(かん)さ、息子(こ)顯家(たかくじ)の姿(すがた)を思(おも)わす重(おも)ねた。それから半年(はんねん)、奴(やつ)は帝(てい)と我(われ)らの為(ため)に命(いのち)がけでよく働(はたら)いた。奴(やつ)が息子(こ)同(どう)様(じやう)早く死(し)ねば良かった。だがその想(おも)いこの度の河内(かみの)の決戦(けつせん)での奴(やつ)の使(つか)命(めい)は、できるだけ大敗(たいばい)して見(み)せ、賊軍(ぞくぐん)を吉野山麓(よしの)に引き込むことだ。中途(ちゆうと)半端(はんぱ)な戦勝(せんじやう)で東条(とうじょう)への退却(たいせつ)は許(ゆる)されぬ。今の儀(ぎ)の感情(かんじやう)とは矛盾(むじゆん)するが、楠軍(なばな)が戦死者(せんじやくし)を出(い)せば出す程(ほど)、最終(さいしゆ)的な南朝軍(なんてい)の勝利(しょうり)に繋(つな)がることも間違(まちが)いない。儀(ぎ)は何(なに)と罪(つみ)深い作戦(さくせん)を立てたのか。)

和田行忠、賢秀、大塚惟正の烈な最期

世に言う「四条畷の戦い」で、その討死を誰かが特に残念、無念と同情するのは、和田賢秀（二十一歳）の最期だ。賢秀は鎧を脱ぎ、敵の足軽になりすまし、師直の真の本営を探し当てたのは、楠主力部隊が全滅し、戦場からは緊張感が抜け、あちこちから歓声の上がる宵開迫り頃だった。見れば師直は武將たちを集め、何やら大声で指示を飛ばしている。賢秀は師直が一人になるのを隠れてじっと待った。遂に師直、馬に跨るや、ただ一騎、街道に入った。意気揚々と北に進み出す。その距離は僅か十歩余り。師直に向かつて駆け出す賢秀に気づいたのは、たまたま彼を見知っていた湯浅八郎。八郎は慌てて抜刀し、同じ方向へと走った。賢秀の薙刀（なぎなた）が馬上の師直の背に振り下ろされるより、二人の間に滑り込んだ八郎の太刀が下から賢秀の喉を突き上げるのが早かった。

正行たちの討死を確認した賢秀の兄、和田行忠（二十一歳）は、正行の遺言に従い、見聞きしたお味方の最期を吉野に伝えるのが使命だと、街道添いの林間を南へと急いでいた。だが追跡してきた阿保忠実（あぼただぢね）ら、三騎の武將たちに背後から無数の矢を射かけられ、七本の矢を身に受けて倒れた。それも敵を睨み返して行忠は立っていた。「腰抜け武士共に官方武士の最期を見せて遣わそう」と腰刀を抜き、自らの頸を刺してゆつくりと倒れた。喉から血が霧のように噴いて、辺りの枯れ草を真っ赤に染めたと言ふ。

湊川の戦いの生き残りだった大塚惟正（これまさ）（三十五歳）は、正行、正時らの父親役を努め、楠家には良き相談役だった。この惟正も味方からはくられ、当初の申し合わせ通り、他の武將たちも無事退却したろうと、その殿軍（しんがり）を勤める気であった。だが途中、正行、正時、正家らが討ち死にしたと聞かされ、再び北条まで馬に鞭当て引き返した。そこで敵の密集部隊に遭遇するや、抜刀し、名乗りを上げてその中に突っ込んだ。

多勢に無勢、惟正は馬上から引きずり降ろされ、四周から突き出す無数の白刃が、彼の頭部を脛（なます）のように斬り刻んだ。

楠正行、師直の目前で、最後まで従った者たちと自刃する

時刻を五日の午後に戻そう。楠正行は六百名になった味方の隊を離れ、僅か数騎で敵の大将、師直を探して討ち取ろうとしたその時だ。飯盛山の林間に潜んでいた幕府の備兵



和田賢秀の墓 あと姿で敵の大将、師直を倒せたのに、という賢秀の最期を惜しむ庶民の思いが彼の墓を造らせたのだろう。

たち、坂東の野武士共数百名と、中国地方の国人衆数百名が、欲得づくの出世話に釣られたか、死にもの狂いで楠軍を襲って来た。激闘の後、備兵らは討ち死にするか逃げ去ったが、楠軍の損害も大きかった。騎兵は殆どが乗馬を失い、多数の兵が討死するか負傷した。ここで正行、石川次郎に命じ、新たな負傷者を東条に帰すことにした。残った兵は二百名足らず。

正行は、正時、行忠、賢秀ら数名の従者を連れ、徒歩で師直の本営を探すことにした。前方林の向こうに「輪違い」の旗が並ぶ師直の陣が見える。中央には兜の鍬形に輪違いの紋の金飾りを付けた師直らしき武將が馬上から悠然と戦況を眺めていた。正行たちはこっそり背後から近づき、馬を槍で突いて落馬させると、正行がその首を掻いた。しかしそれは師直ではなく、影武者をつとめた上山六郎の首であった。

落胆した正行は一旦隊に戻り、再び師直を探そうとした。すると遠くの林間から手招きする武將がいる。「あれこそ敵の大将、師直に違いない」とそちらに向かつて全員で駆けだした。林間を抜け、広場に出た時だ。待ち伏せしていた敵の弓隊が二斉に矢を放った。次々に兵らは倒れ、走れる者は半分以下になる。そこへ師直の親衛隊が襲ってきた。味方の死傷者も顧みず、正行はただひたすら師直一人を追いかける。この時、和田賢秀、大塚惟正の姿を見失った。再び林間を抜け、広場に出ると、師直との距離は数メートル。その時、草むらに伏せていた敵の弓隊が立ち上がった。至近距離から斉に射撃して来る。正行は右目に矢を受けた。頭部全体に激痛が走って左目さえ開けられず、そのまま正行しゃがみ込んでしまう。だが正行は痛みを堪え、力を振り絞って立ち上がると右目に刺さった矢を自ら引き抜いた。鮮血で顔から胸まで右半分が真っ赤になる。その時だ。「危ない！」と、今度は兄を庇って立ち上がった。正時の喉に矢が刺さった。「もはやこれまで」と二人は向き合い、それぞれの太刀の切先を相手の喉に刺し合せて自刃した。これを見ている三十余名の者たちも刺し違えたり、太刀を地面に立てその上に俯して自刃する。

楠（木）一族の長老、頭を丸めた僧宗円こと楠木正家（六十一歳）は、生き残って味方の最期を報告せよと和田行忠に帰還を命じた後、包圍する敵を一喝し、自刃した同志の前で、彼らの靈魂を鎮め成仏させようと大声で一卷読経した後、立ち上がった。鎧を解き、敵兵の見る中、腰刀を逆さに持つて左脇腹を突き、そのままゆつくりと前に倒れて絶命した。

（次回最終回、「風の森の大勝利」に続く）

当霊園の墓地購入者様への専用情報欄であるため
一般には非公開とさせていただきます。

ペットのお墓愛

手厚い供養で信頼と安心

年4回の合同供養

好評!! メモリアルプレート

美原口ターリーに設置の案内看板

ペット合同供養墓

「愛」誕生から二年半が過ぎ、平日・休日を問わず多くの方にお参りいただき、墓前には美しい供花が絶える事がございません。現在約1000体の愛しいペットちゃん達も優しさに包まれ安らかに眠っていることでしょう。さて、好評いただいておりますメモリアルプレートも当初設置しておりました取付壁をさらに増設いたしました。とは言い貼付できる枚数には限りがございますので、ご希望の方は早めのお申込をお勧めいたします。

フリーダイヤル 0120-1212-94

わんにゃん わんにゃん くよー

株式会社 関西メモワール

霊園事業コンサル部 / 石材部 浪石 / ペット葬祭部

〒587-0021 堺市美原区小平尾1059-26 TEL 072(363)3414 FAX 072(363)3014

水曜定休日 毎月第一月曜 火曜定休日

10th Anniversary

霊園からお盆・ 秋季彼岸のご案内



お盆の墓参は、八月九日(土)
～八月十七日(日)

お盆の墓花はローソク線香付で従来通り二千三百円にて販売させて頂きます。この時期の日中は日差しが強く、また午前中は墓参者が集中し駐車場も一杯となるため、当霊園では夜八時まで夜間照明を延長し、ナイトーを実施いたします。夕方以降の涼しい時間帯での墓参をお勧めいたします。

秋季彼岸の墓参は、九月二十日(土)
～九月二十七日(土)

この期間、墓花はローソク線香付で千八百円となります。彼岸の墓参は二十日(土)二十一日(日)二十三日(火)に集中するかと思われまます。駐車場は午前中がいつも一杯となりますので、墓参時間を午後や夕方に行われるのもひとつの選択でしょう。

墓参送迎バスのご予約はお早めに

お盆・お彼岸期間中は従来通り送迎バスを増車・増便いたしますが、例年ご予約が殺到いたします。定員に達した時点でご予約を締め切らせていただきますので、ご了承下さいませ。墓参の日程がお決まりの際には早めのご予約をお願いいたします。

平成26年 9月													
27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14
土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日
通常	通常	臨時開館	11:00 秋季彼岸供養会 法願寺涅槃堂	10:30 霊園主催 秋季彼岸供養会	通常	通常	10:30 佛乘寺永代供養墓 秋季彼岸供養会	通常	定休日	通常	通常	通常	10:30 ペット墓「愛」 秋季彼岸供養会
通常	通常	臨時開館	通常	通常	通常	11:00 二期永代供養墓 秋季彼岸供養会	10:30 三期永代供養墓 秋季彼岸供養会	11:30 三期永代供養墓 秋季彼岸供養会	通常	定休日	通常	通常	通常
お彼岸期間 墓花 1,800円				通常 1,300円									
運行	運行	臨時運行	運行	運行	運行	運行	運行	運行	運行	運行	運行	運行	運行

平成26年 8月											月			
17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	日
日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	曜日
通常	10:30 佛乘寺永代供養墓 孟蘭盆供養会	通常	通常	臨時開館	通常	通常	11:00 法願寺涅槃堂 孟蘭盆供養会	10:30 霊園主催 孟蘭盆供養会	通常	定休日	通常	通常	通常	美原
通常	11:30 三期永代供養墓 孟蘭盆供養会	11:00 二期永代供養墓 孟蘭盆供養会	10:30 二期永代供養墓 孟蘭盆供養会	通常	臨時開館	通常	通常	通常	通常	定休日	通常	通常	通常	美原東
お盆期間 墓花 2,300円				通常 1,300円				墓花						
運行	運行	運行	運行	臨時運行	運行	運行	運行	運行	運行	運行	運行	運行	運行	墓参 送迎バス

霊園主催行事のお知らせ

◆孟蘭盆会

美原ロイヤルメモリアルパーク

埋葬者全般の霊供養(先祖供養堂)
八月十日(日)十時三十分 導師 高野山真言宗 法願寺
八月十日(日)十一時 佛乘寺涅槃堂供養会
八月十六日(土)十時三十分 佛乘寺永代供養墓供養会

美原東ロイヤルメモリアルパーク

埋葬者全般の霊供養(法要室)
八月十五日(金)十時 導師 浄土真宗本願寺派 圓乗寺
ロイヤルシユラインゾーン(二期)各種永代供養墓の霊供養
八月十五日(金)十時三十分 導師 浄土真宗本願寺派 圓乗寺
サウスゾーン(三期)各種永代供養墓の霊供養
八月十六日(土)十一時三十分 導師 真宗大谷派 佛乗寺

◆秋季彼岸会

美原ロイヤルメモリアルパーク

埋葬者全般の霊供養(先祖供養堂)
九月二十三日(火)十時三十分 導師 高野山真言宗 法願寺
九月二十日(土)十時三十分 佛乘寺永代供養墓供養会
九月二十日(土)十一時 法願寺涅槃堂供養会
九月二十三日(火)十一時 ベット合同供養墓「愛」秋季供養会
九月十四日(日)十時三十分 導師 高野山真言宗 法願寺

美原東ロイヤルメモリアルパーク

埋葬者全般の霊供養(法要室)
九月二十日(日)十時 導師 浄土真宗本願寺派 圓乗寺
ロイヤルシユラインゾーン(二期)各種永代供養墓の霊供養
九月二十日(日)十時三十分 導師 高野山真言宗 大師寺
サウスゾーン(三期)各種永代供養墓の霊供養
九月二十日(日)十時三十分 導師 高野山真言宗 法願寺

美原ロイヤル&美原東ロイヤル墓参送迎バス出発時刻表全便予約制。

近鉄松原駅南口 ロータリー発	
第一便	10:10
第二便	11:40
第三便	13:50
臨時第四便	15:15

南海北野田駅東口 ライブ第二駐車場発	
第一便	9:30
第二便	10:55
第三便	14:30
臨時第四便	16:00

■詳しくは、美原ロイヤル事務所までお問い合わせください。
(072)363-1114

お墓の考え方は、どんどん自由に、ますますおしゃれに。

マイホームにこだわるように、自分らしいおしゃれを楽しむように、お墓づくりに関しても、デザインにこだわりたい、墓地にもこだわりたい、そんな方が急増しています。オリジナル墓についての希望も、「亡くなられた方の好きなものをモチーフにしたい」「好きな音楽が流れるようにしたい」こだわりはさまざま。



丸長石材
本社 〒547-0021 大阪市平野区喜連東3-5-65
TEL.06(6709)4468 FAX.06(6790)5053
営業時間 / AM9:00 ~ PM.6:00(定休日:水曜日)
瓜破営業所 〒547-0022 大阪市平野区瓜破東3丁目1-17
TEL.06(6709)4471
営業時間 / AM9:00~PM.6:00(定休日:水曜日)

